

ましきまち戦略会議2020で頂いたご意見と、第2期総合戦略（案）への反映について

番号	頂いたご意見（要旨）	第2期戦略（案）への反映	
1	【戦略会議2020より】 提言2で、「阿蘇くまもと空港をもっと活用しよう。」という理想像と、その実現に向けて、「熊本国際空港株式会社と積極的に話をしよう」「空港内に図書館を作って益城町の歴史・文化の資料に触れてもらおう」「空港施設見学ツアーや空港周辺見学ルートを整備して、空港をテーマパーク化しよう」といった熊本空港及び周辺地域との連携に関する具体的なアイデアの提案をいただいた。	P5～P6の益城町のセールスポイントに「国際交流の機会」の項目を追加し、以下の内容を追記します。 「先述のとおり、益城町には空の玄関口である阿蘇くまもと空港があり、令和元年度より空港の民営化が進められています。新たに空港の運営を担う熊本国際空港株式会社は国際線の拡充を目指しており、海外とのアクセス性の向上が見込まれます。 また、益城町には明治期から大正期にかけて台湾の教育の充実に尽力し、今でも現地で慕われている偉人がいるなど、かねてより海外との友好的なつながりがあり、今後そのつながりをより一層活かした国際交流が期待されます。」 また、P19の政策目標2・基本施策③の事業①「滞在場所の整備・確保」の文章について、下記のように修正します。 「例えば古民家の再生・利活用を中心とした地域での滞在場所の創出や地域の自然を活用した遊び場の創出、空港及び空港周辺で本町の魅力に触れていただく場の整備等、本町が既に持っている地域の魅力を最大限に活かしながら、来町者がより長い時間、本町に滞在できるような受け皿の整備を、地域住民や事業者等と協働で推進していきます。」	本文
2	【戦略会議2020より】 提言4で、「みんなで運動を大好きになろう。」という理想像と、その実現に向けて、「地域・地区での運動指導を補助する人（アシスタント）を増やしてこう」等の日常的な運動の重要性に関する具体的なアイデアの提案をいただいた。	P14の政策目標1・基本施策③の冒頭の文章について、下記のように修正します。 「健康に暮らしていくためには、「歩く」をはじめとした日常的な運動を継続していくことが非常に重要です。また、「まちのにぎわい」にとっても、「まちをどれだけの人が歩いているか」は非常に重要な要素となります。さらに、いつでも多くの人が歩いているまちは、常に見守りがあるまちとも言えるため、特に子供たちにとっての安心の町でもあります。「歩きやすいまち」「歩きたくなるまち」「運動したくなるまち」となっていくための基盤づくりを推進していきます。」	本文
3	【戦略会議2020より】 提言7で、「子どもも大人も思いっきり遊べる場所を作ろう。」という理想像と、その実現に向けて、「子供たちが伸び伸びと自然の中で楽しく遊べる環境を整えよう」「老人会と子どもたちが一緒に焚火する機会をつくろう」等の自然と触れ合いながら遊べる場所の整備に関する具体的なアイデアの提案をいただいた。	P19の政策目標2・基本施策③の事業①「滞在場所の整備・確保」の文章について、下記のように修正します。 「例えば古民家の再生・利活用を中心とした地域での滞在場所の創出や地域の自然を活用した遊び場の創出、空港及び空港周辺で本町の魅力に触れていただく場の整備等、本町が既に持っている地域の魅力を最大限に活かしながら、来町者がより長い時間、本町に滞在できるような受け皿の整備を、地域住民や事業者等と協働で推進していきます。」	本文
4	【戦略会議2020より】 提言10で、「笑顔で商売できる場所を増やそう。」という理想像と、その実現に向けて、「高校や大学等と連携しながら、農産物の栽培・加工・販売までをチャレンジビジネスとしてやれる体制を整えよう」という具体的なアイデアの提案をいただいた。	P26の政策目標4・基本施策②の事業②「起業に関する相談体制・支援体制の整備」の文章について、下記のように修正します。 「行政、関係機関、民間企業及び教育機関（大学や高校等）で連携しながら、本町で起業を検討している人が相談を持ち込んだり支援を受けたりできる場を作ります。」	本文
5	【戦略会議2020より】 提言11で、「わたしたちの農業をバージョンアップしよう。」という理想像と、その実現に向けて、「高校や大学等と連携しながら、農産物の栽培・加工・販売までをチャレンジビジネスとしてやれる体制を整えよう」「空港を活用して農産物を海外へ輸出しよう」等の営農強化に関する具体的なアイデアの提案をいただいた。	P27の政策目標4・基本施策③に、新たに「④営農強化に向けた取組の推進」という事業を追加し、以下のような内容を追記します。 「新規就農者が安心して継続的に農業に取り組めるためには、「安定して稼げる農業」の実現に向けた取組も重要です。農業や商業を専門的に研究・学習している大学や高校等の教育機関と連携しながら、農業へのICT導入や農産品ブランディング等実践的に取り組むことで、営農力の強化を図っていきます。」	本文

番号	頂いたご意見（要旨）	第2期戦略（案）への反映	
6	<p>【戦略会議2020より】 提言12で、「国境を感じない生活を楽しもう。」という理想像と、その実現に向けて、「農業法人と連携して、農業研修生と子どもたちの国際交流を行おう」「色々な国の子どもが地元の食材を使って一緒に料理を作るイベントを開催しよう」といった国際交流の充実に向けた具体的なアイデアの提案をいただいた。</p>	<p>P20の政策目標2・基本施策④の冒頭の文章について、下記のように修正します。 「同時に、「これまでに益城町に関係を持ってくれた方々」にもっと益城町を好きになってもらうための取組を進めていくことが重要と考えます。 これは海外の方についても同様です。そういった方々に～」</p> <p>また、事業②「本町出身者への情報発信」については、事業名を「本町出身者や居住経験者への情報発信」と修正した上で、その中の文章についても、下記のように修正します。 「本町には高校や大学がなく、義務教育課程を終えた子供たちは、その後、町外で過ごすことが多くなります。また、町内の事業所に勤務されたり、農業研修に來られたりした方が、一時的に町で暮らされたのち町外に戻られる例もあります。そういった方々に、SNS等を活用しながら町の最新の情報を定期的に発信していくことで、町の活動への参加や将来的なUターンの促進を図っていきます。」</p> <p>さらに、P16の政策目標1・基本施策⑥の事業②「関係人口増加のための連携」の文章について、下記のように修正します。 「また、関係人口増加に向けた取組に関しては、国内自治体との連携に留まることなく、歴史的な繋がりや社会環境的に類似した部分を持つ国外の自治体との連携や、海外から本町に來られている方々との交流も積極的に推進していきます。」</p>	本文
7	<p>【戦略会議2020より】 提言13で、「大人が輝いている姿を子どもに見せよう。」という理想像と、その実現に向けて、「おもしろい大人マップを作ろう」「公民館や古民家などを活用して、それぞれが「こだわり」や「好き」を発信するギャラリーを作ろう」といった地域の人達をさらに知るための具体的なアイデアの提案をいただいた。</p>	<p>P21の政策目標3・基本施策①の事業②「地域と密接につながる教育の推進」の文章について、下記のように修正します。 「また、地域の歴史・自然等の土地が持っている魅力や、地域の人達やその人達によって行われている活動などの魅力を伝え再発見する学習等を通じて、「ふるさと愛」の醸成を図ります。」</p>	本文
8	<p>【戦略会議2020より】 提言14で、「幸せな子どもだらけのまちにしよう。」という理想像と、その実現に向けて、「多様な家庭への理解普及・啓蒙活動を行おう」「ひとり親家庭でも充分暮らしていける制度をつくろう」といった、多様な家庭への支援に関する具体的なアイデアの提案をいただいた。</p>	<p>P23の政策目標3・基本施策②の事業③「子ども子育て支援環境の整備」の文章について、下記のように修正します。 「また、多様な家庭の形態があることを理解した上で、それぞれのニーズに対応した子育て環境づくりに、住民、関係機関等とともに努めます。」</p>	本文
9	<p>【戦略会議2020より】 提言16で、「世界に誇れる人材を育てよう。」という理想像と、その実現に向けて、「大学と連携しながら、農業×ICTの実践的教育を推進しよう」「自衛隊や空港、大学との連携で、多様な興味を持つ人材を育てよう」といった地域の産業と関連した分野の人材育成に関する具体的なアイデアの提案をいただいた。 また、「リアルな交流とオンライン交流を組み合わせた海外との学習交流を実施しよう」といった、ICTを活用した学習に関する具体的なアイデアの提案もいただいた。</p>	<p>P21の政策目標3・基本施策①の冒頭の文章について、下記のように修正します。 「益城町の持つ自然環境や産業・人材といった資源と新たな技術を活用しながら、世界に羽ばたく人材を育てられるような、特徴的で魅力的な教育環境づくりを推進していきます。」</p> <p>また、政策目標3・基本施策①の事業①「ICTを活用した教育の推進」の文章について、下記のように修正します。 「町内児童生徒の知的好奇心を刺激しながら、確かな学力をより効果的に育成するとともに、学校現場における校務の情報化をより推進するため、ICT教育※1環境の整備をさらに推進していきます。」</p>	本文
10	<p>【戦略会議2020より】 提言17で、「10代の挑戦を応援できる町になろう。」という理想像と、その実現に向けて、「中高生のチャレンジを応援しよう」「学校で学んだことをすぐに実践できる場をつくろう」といった具体的なアイデアの提案をいただいた。</p>	<p>P21～22の政策目標3・基本施策①に、新たに「④子どもたちの「挑戦」の応援」という事業を追加し、以下のような内容を追記します。 「子どもたちにとって、学校で学んだことを実践しながら、色々なことに挑戦していくことも大事な学びとなります。子どもたちの挑戦を応援できる大人が皆で連携しながら、挑戦のための場の創出や、挑戦を応援する仕掛けづくり（例えばプロフェッショナル人材とのマッチング等）に取り組んでいきます。」</p>	本文